

地域再エネワークショップ(淡路)で 報告された取組事例

洲本市役所企画情報部企画課 高橋 壱

656-8686 兵庫県洲本市本町三丁目4番10号

Hajime_Takahashi@city.sumoto.lg.jp

<https://www.city.sumoto.lg.jp/site/enepa/>

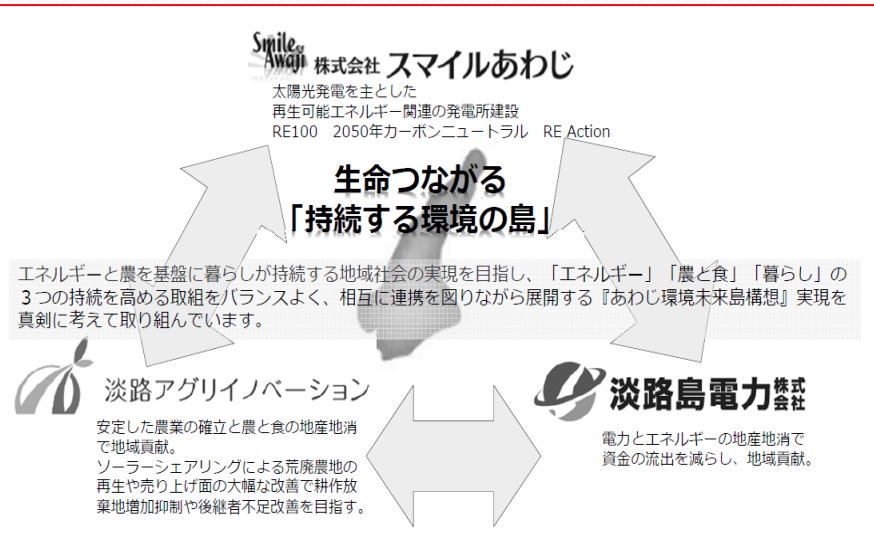
電話 0799-24-7614 FAX 0799-23-2340

地域再エネワークショップ(淡路)の開催

- 兵庫県と淡路島内三市は、平成22年に「あわじ環境未来島構想」を策定。再生可能エネルギーの導入等により、島の電力自給率100%を2050年に達成することを目標に掲げている。
- 洲本市は、平成25年から龍谷大学らと連携し、再エネ活用による地域活性化に向けた検証と実践を行っている。また、平成26年には「洲本市バイオマス産業都市構想」を策定し、地域自立分散型エネルギー供給体制の強化を目指している。
- このような背景から、淡路島や洲本市には、多種多様な再エネに関する事例が存在している。
- そこで、淡路地域の再エネ導入等取組事例を情報共有し、持続可能な地域づくりについて考え合う【地域再エネワークショップ(淡路)】をオンライン開催(令和3年2月6日、兵庫県温暖化対策課主催)。
- 洲本市内を中心に8件の事例が報告され、参加者で意見交換を実施。

地域再エネワークショップ(淡路)で報告された事例 1~4

営農継続型太陽光発電所の設置【淡路島ソーラーファーム】



地域エネルギー循環システムの構築【(株)スマイルあわじ】

地域貢献型フロートメガソーラー【龍谷大学】



集落内消費型小水力発電システム【竹原町内会】 3

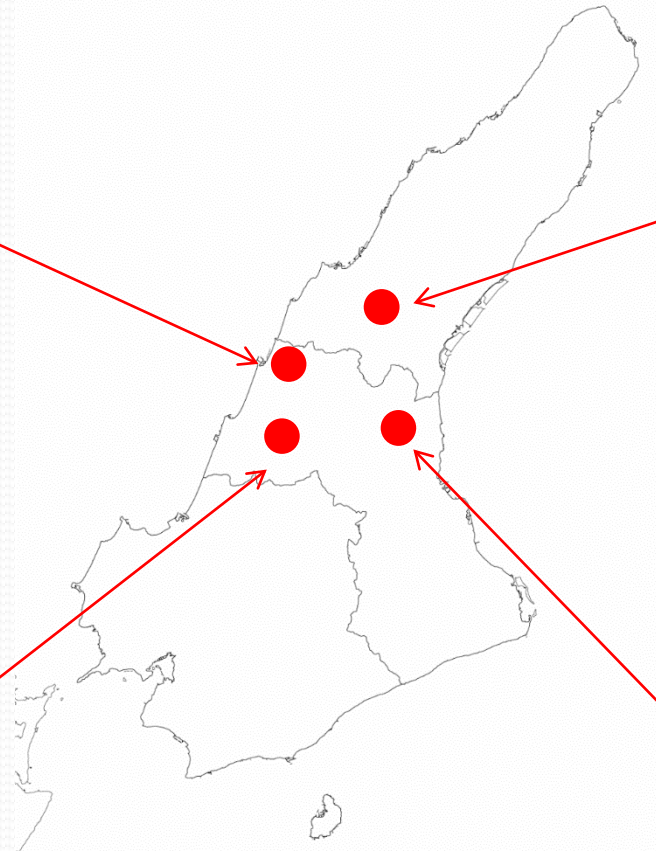
地域再エネワークショップ(淡路)で報告された事例 5~8

竹チップ専焼ボイラーによる熱供給【洲本市】



廃校を活用したバイオ燃料製造利用【浜田化学(株)】

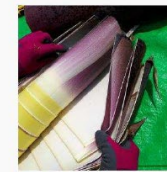
伐採竹買取、チップ・竹粉等製造販売【杉本林業(株)】



あわじ島ちくができるまで



① 幼竹収穫



② 皮剥ぎ



③ カット



④ 節取り



⑤ 洗浄



⑥ 湯がき作業



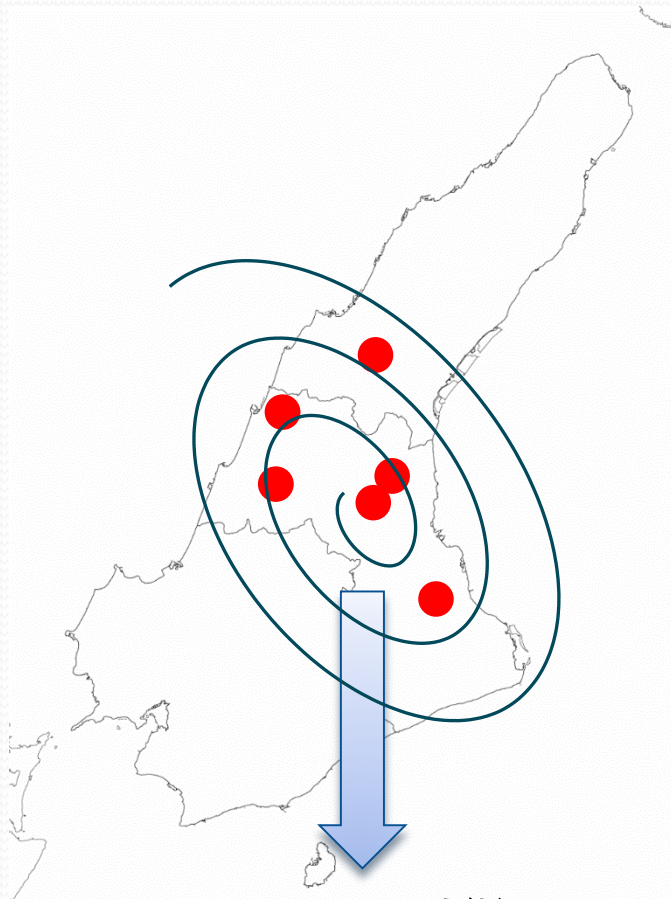
⑦ 塩をまぶして保存



⑧ 1か月保管後のメンマ

放置竹林の整備と淡路島産メンマ作り【あわじ里山プロジェクト】

地域再エネワークショップ(淡路)での意見



WSを契機に
次のステップへ

- これだけの多様な事例が揃う地域は珍しい／再エネ見本市として相談窓口になってはどうか
- 身近な資源だから使う、ということが地域の当たり前になれば(既にそうなっているところも?)
- ボランティアだけでは続かないので、採算性や出口の確保も大切／産学官の連携や協力が必要
- CO₂排出削減量以外の評価軸が必要／脱炭素だけでは動きにくい／定性的では評価されにくい
- 様々な取り組みが力強く連動する、一つの大きな渦のようになれば／司令塔や、地に足の着いた夢物語(大きな絵)が必要